

教育分野における女性の理工系人材の育成及び アンコンシャス・バイアス解消 に向けた取組について

文部科学省

1. 女性の理工系人材に関する現状

2. 文部科学省における主な施策

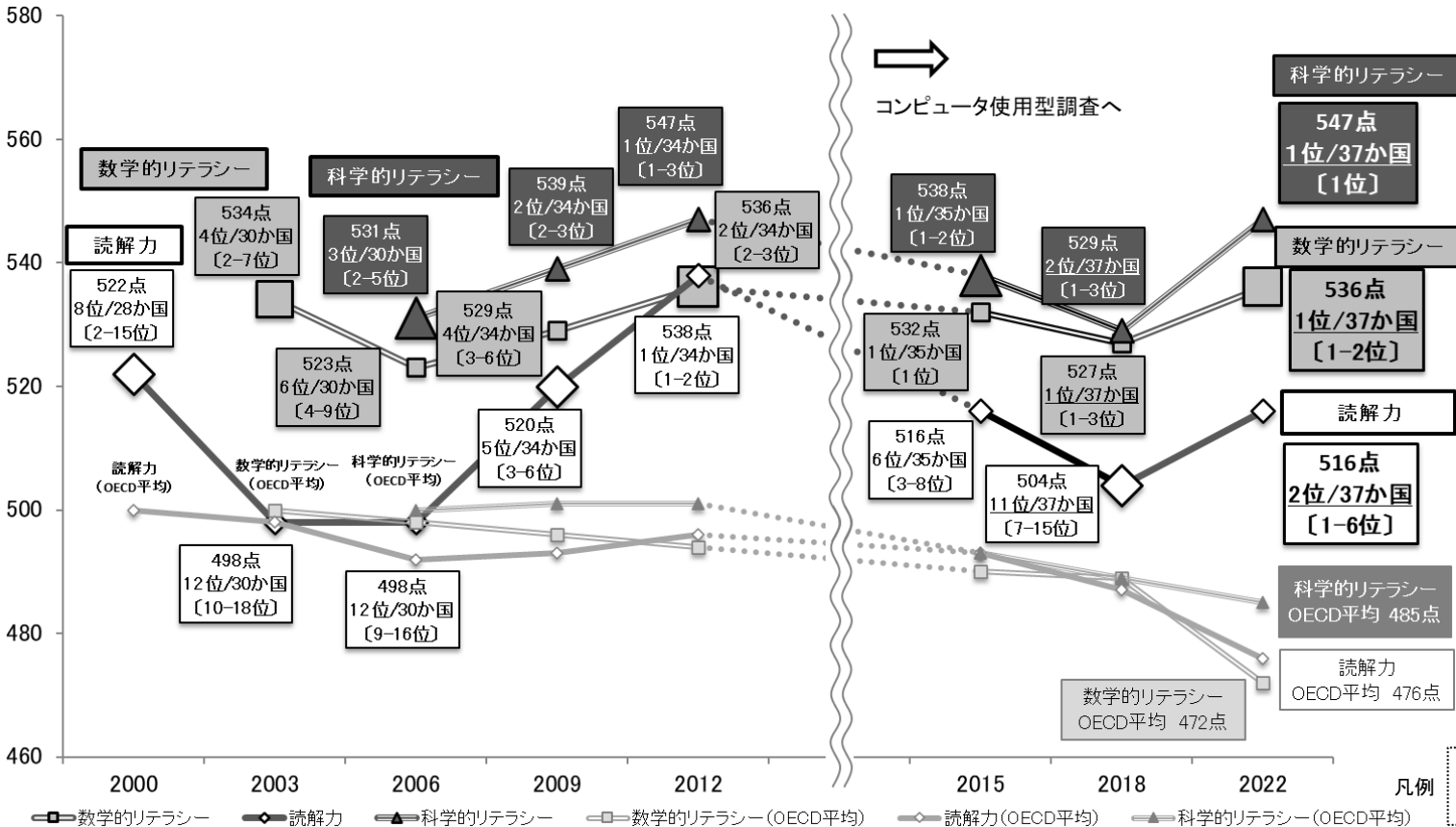
3. 各種計画等における位置づけ

4. 取組紹介

義務教育終了段階の数学的・科学的リテラシー

義務教育終了段階の国際学力調査（OECDのPISA調査）において、日本は、
・「**数学的リテラシー**」「**科学的リテラシー**」については、**安定的に世界トップレベルを維持**。
また、女子の平均スコア、習熟度が高い生徒の割合は、OECD平均より高い。
・「**読解力**」については、女子の平均スコアが男子より高い。

【出典】OECD生徒の学習到達度調査（PISA）
2022年調査国際結果報告書



男女のスコア差
※太赤字が日本、()内がOECD平均

	男子	女子
科学的リテラシー	548 (485)	546 (485)
数学的リテラシー	540 (477)	531 (468)
読解力	508 (464)	524 (488)

男女別に見た習熟度レベル（レベル1以下・レベル5以上）別の割合（2022年）

数学的リテラシー	日本		レベル1以下		レベル5以上	
			男子	女子	男子	女子
OECD平均	日本	男子	13.1%	10.9%	26.6%	19.4%
		女子	10.9%	19.4%	26.6%	19.4%
科学的リテラシー	日本	男子	9.2%	6.8%	20.0%	16.0%
		女子	6.8%	16.0%	20.0%	16.0%
読解力	日本	男子	16.9%	10.6%	11.7%	13.0%
		女子	10.6%	13.0%	11.7%	13.0%
OECD平均	OECD平均	男子	30.7%	30.7%	6.2%	6.2%
		女子	31.6%	21.7%	6.8%	8.3%

算数・数学、理科に見られる興味・関心の男女差

○算数・数学、理科への興味・関心は、男子の方が女子より高い（TIMSS2023）。

算数・数学、理科の勉強は楽しい

数学、理科を勉強すると、日常生活に役立つ

数学、理科を使うことが含まれる職業につきたい

小4算数

小4理科

中2数学

中2理科

中2数学

中2理科

中2数学

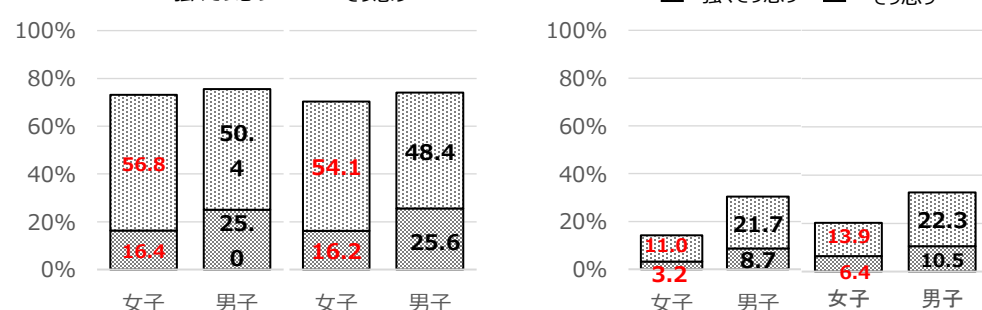
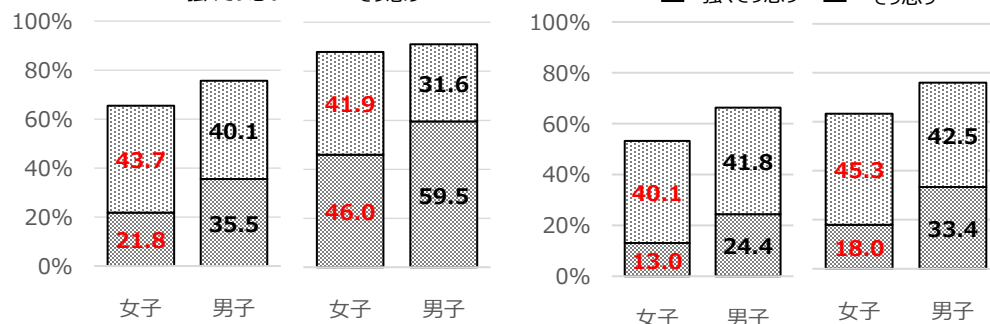
中2理科

■ 強くそう思う ■ そう思う

■ 強くそう思う ■ そう思う

■ 強くそう思う ■ そう思う

■ 強くそう思う ■ そう思う



算数・数学、理科は得意だ

わたしは算数、理科が苦手だ

数学、理科は私の得意な教科ではない

小4算数

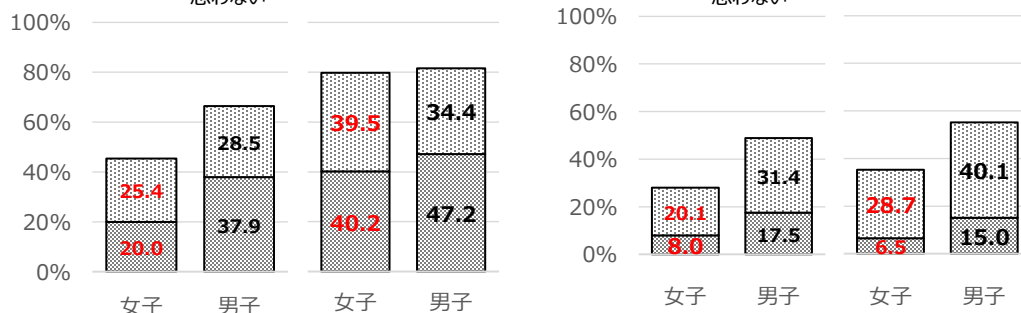
小4理科

中2数学

中2理科

■ まったくそう思わない ■ そう思わない

■ まったくそう思わない ■ そう思わない



過去の国内・国際調査における算数・数学、理科の興味・関心の男女差

○全国学力・学習状況調査（令和4年度）

「算数・数学の勉強は好き」「理科の勉強は好き」の項目で、小6・中3とも、女子は男子より「当てはまる」と回答する割合が小さい。

○PISA2022

日本は、理科・数学については、女子は男子より「大好きな教科の一つ」と回答する割合が小さい。

任意に抽出した6か国（フィンランド、フランス、日本、韓国、英国、米国）のうち、フィンランド以外の国では同様の傾向が見られる。

○TIMSS2019

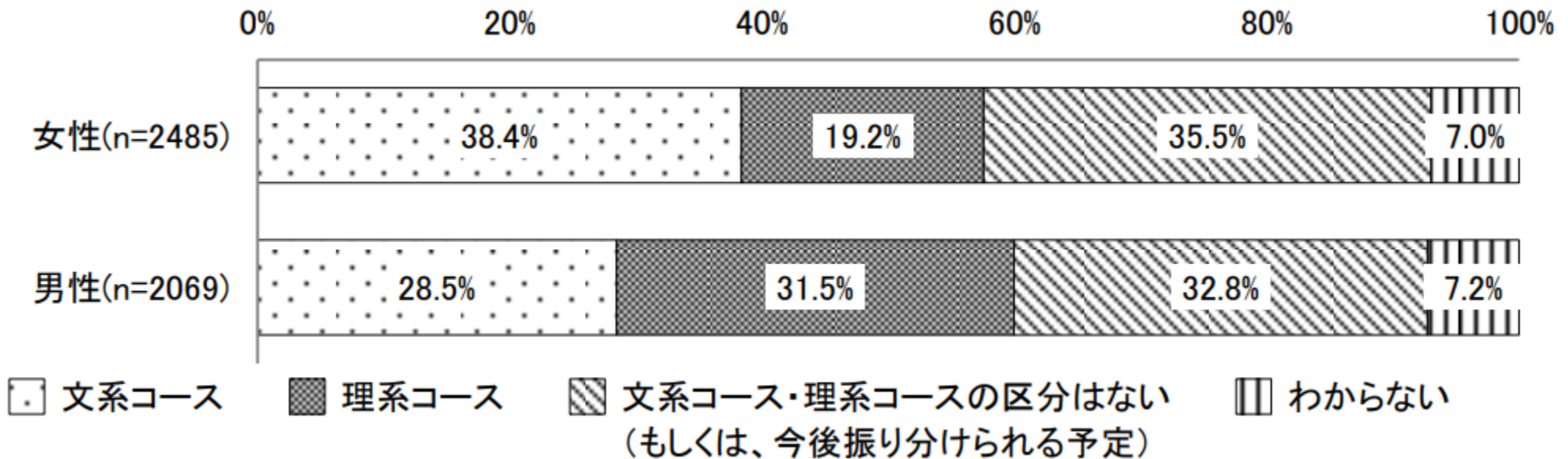
日本は、理科・数学で、女子は男子より「好き・楽しい」と回答する割合が小さい。任意に抽出した6か国（フィンランド、フランス、日本、韓国、英国、米国）のうち、小4理科の米国以外の国では同様の傾向が見られる。

【出典】 令和5年度「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」

A. 令和4年度全国学力・学習状況調査の理科の結果を活用した専門的な分析
・我が国の児童生徒の理科の学力や学習状況に関する傾向等の分析

高校生が所属するコース（文系・理系等）の割合

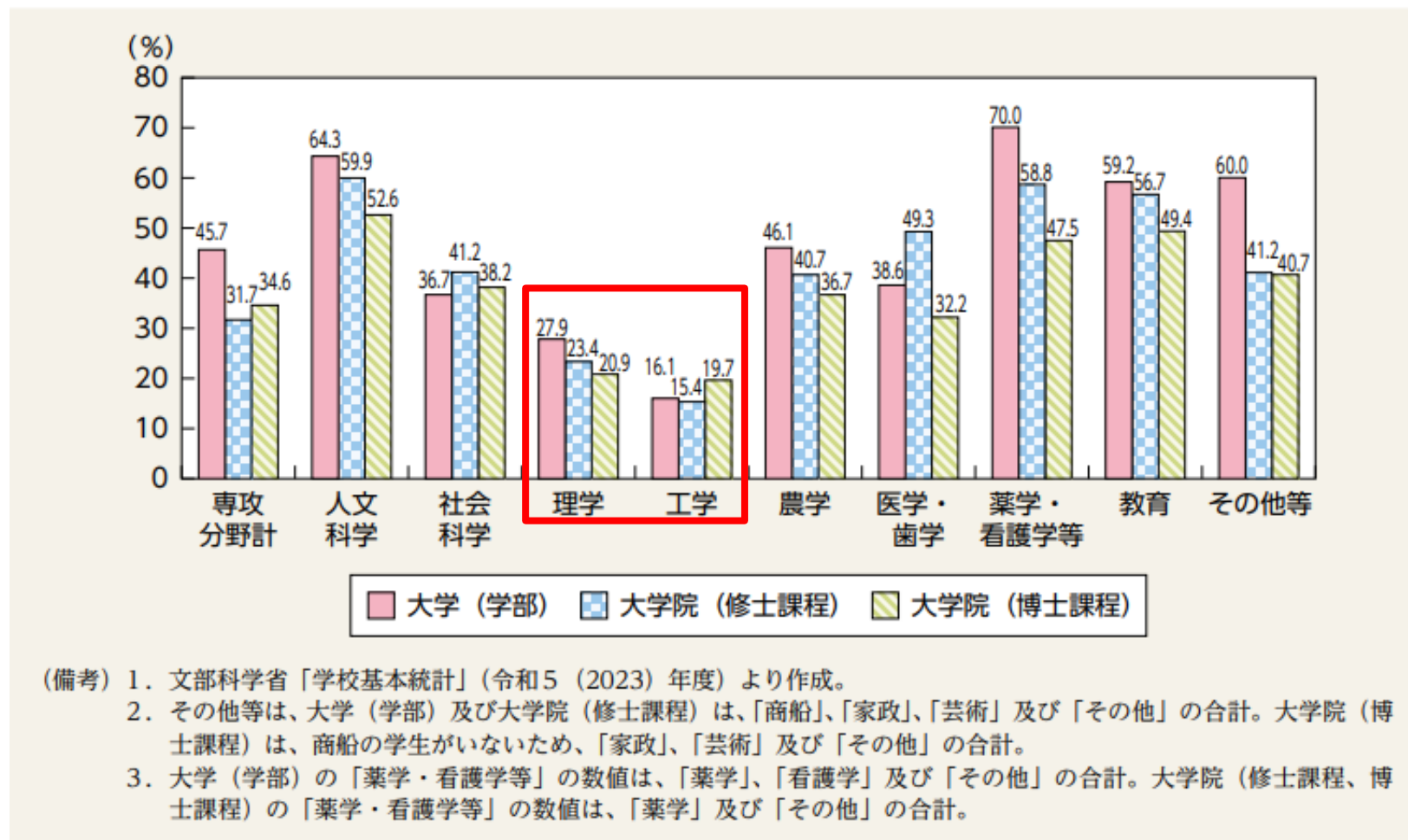
- 高校1年生～3年生への進路選択アンケート調査では、女性は「文系コース」、男性は「理系コース」に所属する割合がそれぞれ高い傾向がみられる。



出典 令和3年度内閣府委託調査「女子生徒等の理工系分野への進路選択における地域性についての調査研究 調査報告書」(令和4年3月)

大学（学部）及び大学院（修士課程、博士課程）学生に占める女子学生の割合

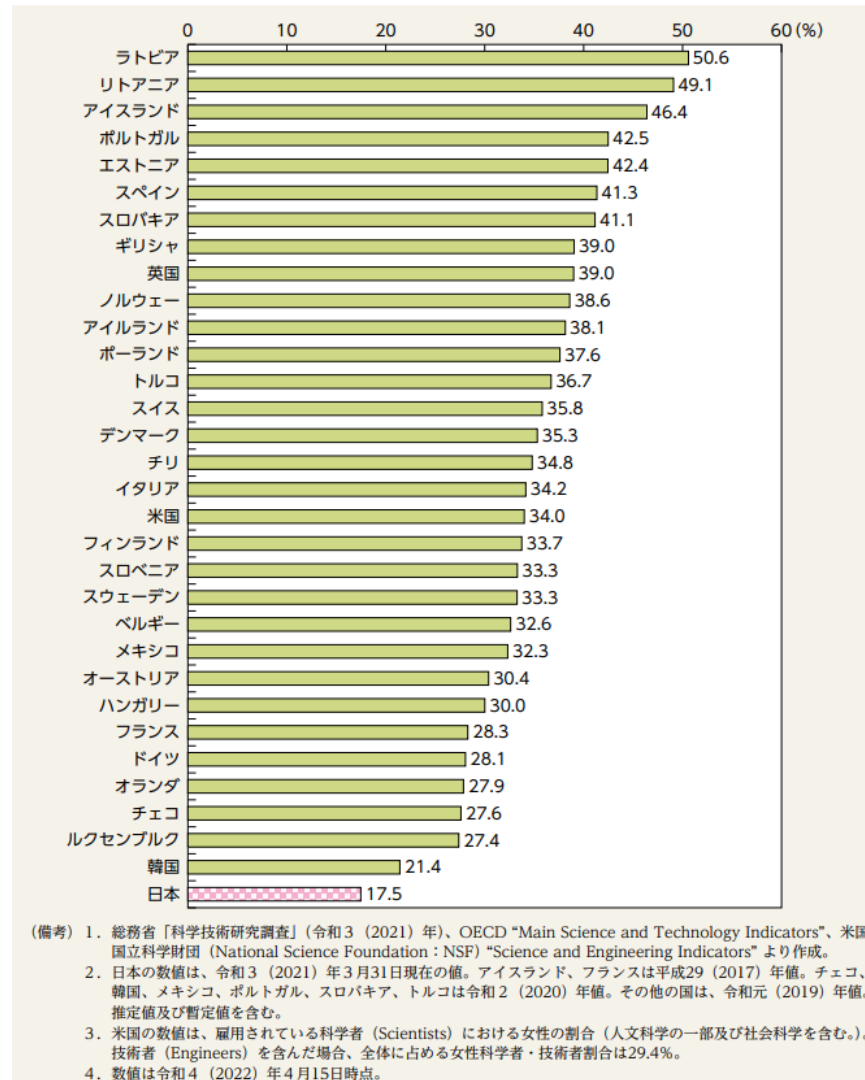
○ 工学と理学の分野では女子学生の割合が低い。



男女共同参画白書 令和6年版より

研究者に占める女性の割合

- 日本の研究者に占める女性割合は17.5%で、OECD諸国の中で群を抜いて低い。



男女共同参画白書 令和4年版より

理系女性に関するアンコンシャス・バイアス

- **「女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない」ということについて、自分の考えにあてはまるか、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験があるかを調査した結果は以下のとおり**

- **性別役割意識**

「女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない」について、「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合

男性：13.0% 女性：7.0%

- **性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験**

【直接】「女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない」について、直接言われたり聞いたりしたことがある割合

男性：3.7% 女性：6.3%

【間接】「女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない」について、直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある割合

男性：12.1% 女性：13.3%

1. 女性の理工系人材に関する現状
2. 文部科学省における主な施策
3. 各種計画等における位置づけ
4. 取組紹介

文部科学省における主な施策

① 理工系に進む女子生徒・女子学生に関する取組

○ 女子中高生の理系進路選択支援プログラムに取り組む大学等への支援

- ・科学技術分野で活躍する女性研究者・技術者、大学生などと女子中高生との交流機会の提供
- ・保護者向けのシンポジウム、出前授業や企業見学等

○ 大学における入学者の多様性確保に向けた選抜

○ 意欲ある大学・高専によるデジタル・グリーン等の成長分野への学部転換等の改革への支援

② 女性研究者への支援

○ ダイバーシティ実現に取り組む大学等への支援

- ・男女双方に対する研究と出産・育児、介護等との両立支援
- ・女性研究者の研究力向上及びリーダー経験の機会の付与
- ・博士後期課程へ進学する女子学生への支援の充実 等

○ 男女の研究者・技術者が共に働き続けやすい研究環境の整備

③ 教育分野におけるアンコンシャス・バイアスの解消

○ 研修・教育プログラムの作成

1. 女性の理工系人材に関する現状
2. 文部科学省における主な施策
3. 各種計画等における位置づけ
4. 取組紹介

第5次男女共同参画基本計画（令和2年12月 閣議決定）

男女共同参画社会基本法に基づき、施策の総合的かつ計画的推進を図るため、令和12年度末までの「基本認識」並びに令和7年度末までを見通した「施策の基本的方向」及び「具体的な取組」を定めるとともに、「具体的な取り組み」の実施により達成を目指す「成果目標」を設定している。

第2部 政策編

I あらゆる分野における女性の参画拡大

第1分野 政策・方針決定過程への女性の参画拡大

第2分野 雇用等における男女共同参画の推進と仕事と生活の調和

第3分野 地域における男女共同参画の推進

第4分野 科学技術・学術における男女共同参画の推進

II 安全・安心な暮らしの実現

第5分野 女性に対するあらゆる暴力の根絶

第6分野 男女共同参画の視点に立った貧困等生活上の困難に対する支援と多様性を尊重する環境の整備

第7分野 生涯を通じた健康支援

第8分野 防災・復興、環境問題における男女共同参画の推進

III 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備

第9分野 男女共同参画の視点に立った各種制度等の整備

第10分野 教育・メディア等を通じた男女双方の意識改革、理解の促進

第11分野 男女共同参画に関する国際的な協調及び貢献

IV 推進体制の整備・強化

第4分野 科学技術・学術における男女共同参画の推進

<成果目標>

項 目	第5次計画策定時	現 状	成果目標（期限）
大学の理工系の教員（講師以上）に占める女性の割合	理学系：8.0%、工学系：4.9%（2016年）	理学系：9.3% 工学系：6.7%（2022年）	理学系：12.0%、工学系：9.0%（2025年）
大学の研究者の採用に占める女性の割合	理学系：17.2%、工学系：11.0% 農学系：18.9%、医歯薬学系：25.3% 人文科学系：37.7%、社会科学系：25.8%（2018年）	理学系：19.9%、工学系：14.1% 農学系：29.7%、医歯薬学系：28.4% 人文科学系：41.2%、社会科学系：29.2%（2021年）	理学系：20%、工学系：15% 農学系：30%、医歯薬学系：30% 人文科学系：45%、社会科学系：30%（2025年）
大学（学部）の理工系の学生に占める女性の割合	理学部：27.9%、工学部：15.4%（2019年）	理学部：27.9%、工学部：16.1%（2023年）	前年度以上（毎年度）

5次計画における主な記載

○科学技術・学術分野における女性の参画拡大

男女双方に対する研究と出産・育児、介護等との両立支援や、女性研究者の研究力向上及びリーダー経験の機会の付与、博士後期課程へ進学する女子学生への支援の充実等を一体的に推進する、ダイバーシティ実現に取り組む大学等を支援する。

○男女の研究者・技術者が共に働き続けやすい研究環境の整備

博士の学位取得者で優れた研究能力を有する者が、出産・育児による研究中断後、円滑に研究現場に復帰することができるよう支援する。

○女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成

大学、研究機関、学術団体、企業等の協力の下、女子児童・生徒、保護者及び教員に対し、理工系選択のメリットに関する意識啓発、理工系分野の仕事内容、働き方及び理工系出身者のキャリアに関する理解を促すとともに、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の払拭に取り組み、女子生徒の理工系進路選択を促進する。

第10分野 教育・メディア等を通じた男女双方の意識改革、理解の促進

<成果目標>

項 目	第5次計画策定時	現 状	成果目標（期限）
初等中等教育機関の教頭以上に占める女性の割合			
副校長・教頭	20.5% (2019年)	25.2% (2023年)	25% (2025年)
校長	15.4% (2019年)	20.3% (2023年)	20% (2025年)
大学の教員に占める女性の割合			
准教授	25.1% (2019年)	26.9% (2023年)	27.5%（早期）、 更に30%を目指す（2025年）
教授等（学長、副学長及び教授）	17.2% (2019年)	19.2% (2023年)	20%（早期）、 更に23%を目指す（2025年）
都道府県及び市町村の教育委員会のうち、 女性の教育委員のいない教育委員会の数	62／1,856 (2019年)	52／1,853 (2021年)	0 (2025年)

5次計画における主な記載

○男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実

- 独立行政法人国立女性教育会館において、初等中等教育機関の教職員、教育委員会など教職員養成・育成に関わる職員を対象に、**学校現場や家庭が直面する現代的課題について、男女共同参画の視点から捉え理解を深める研修の充実**（オンラインの活用を含む。）を図る。
- 固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見の解消、固定観念を打破を図る**ため、学校教育や社会教育で活用できる**学習プログラム**を開発し、活用を促す。

○学校教育の分野における政策・方針決定過程への女性の参画拡大

- 管理職選考について女性が受けやすくなるよう、教育委員会における検討を促す。
- 女性管理職の割合が高い地方公共団体における取組の好事例の横展開を図る。

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）

（令和4年5月 未来創造会議決定、議長 内閣総理大臣、議長代理 内閣官房長官、文部科学大臣兼未来創造担当大臣）

我が国が置かれている現状や人材育成を取り巻く課題を踏まえ、基本理念、在りたい社会像、目指したい人材育成の在り方を整理した上で、

① 未来を支える人材を育む大学等の機能強化

② 新たな時代に対応する学びの支援の充実

③ 学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備

に特に焦点を当てて、今後取り組むべき具体的方策を取りまとめたもの。

第一次提言における主な記載

Ⅲ. 具体的方策

1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化

（1）進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等の再編促進と産学官連携強化

（略）、（3）の取組により理工系分野の学問を専攻する女性の大幅な増加が見込まれることも考慮して、新たな科学技術や地域振興の課題に取り組みたい進学者のニーズに対応できるよう、これまでの学部・学科の構成を大胆に見直し、大学の学部等の再編を促進する。

（3）理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進

（略）幼少期から影響を与える保護者、学校、社会のジェンダーバイアスの排除に向けて社会的機運を醸成するなど、女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組を推進する。

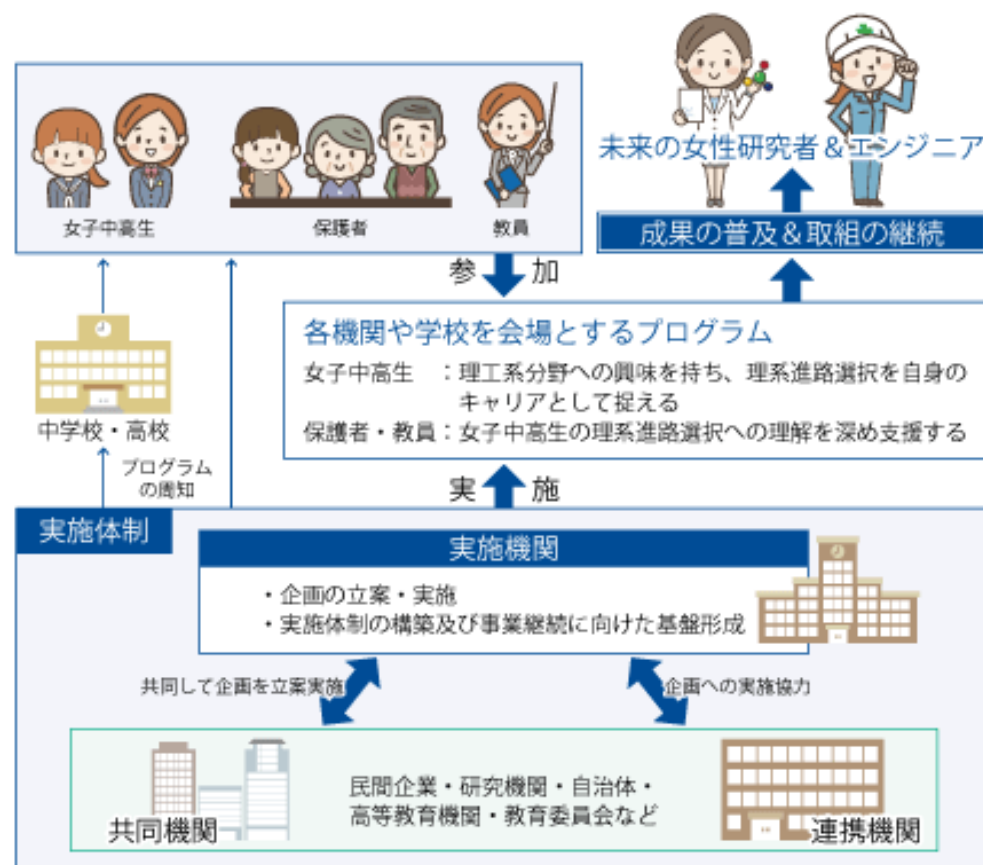
- 1. 女性の理工系人材に関する現状**
- 2. 文部科学省における主な施策**
- 3. 各種計画等における位置づけ**
- 4. 取組紹介**

事業の目的・目標

- 女子中高生の理工系分野への興味・関心を高め、更に意欲・能力を伸長させる機会を提供することで、適切に理工系分野へ進むことを支援するため、科学技術分野で活躍する女性研究者・技術者、大学生などと女子中高生との交流機会の提供や、シンポジウムや出前授業などの取組に加え、地域や企業等と連携した取組などを実施する大学等を支援する。

支援の概要

- 採択期間：3年間
- 実施規模：8拠点程度の大学・高専等
含めた連携機関等
(うち令和7年度新規：3拠点程度)
- 支援額：年間300～600万円/機関
- 対象：女子中高生、保護者、教員
- 内容：シンポジウム開催、実験、出前講座、
理系キャリア相談会等

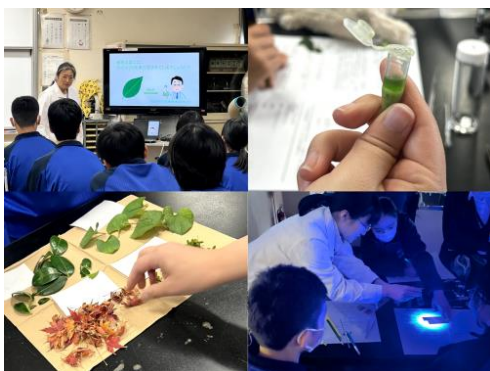


女子中高生の理系進路選択支援プログラムの概要

理工系分野における多様な学びの機会の提供

1. 出前授業による実験体験

教科書の内容を超えた範囲を出前授業の形で実施。視野を広げ、理数分野への関心を広げるきっかけにする。



<大学の先生に教わりながら実験体験>

2. 企業見学・フィールドワーク

地元企業へのフィールドワークを実施。企業紹介、女性社員との交流などを行うことで進路選択の参考にする。



<発電所見学（フィールドワーク）>

理系女性のロールモデルの周知



<ロールモデル講演会>



<ロールモデル集>

保護者・教員へのアプローチ

1. 保護者・教員向けへの理系進路選択支援イベント・ワークショップ

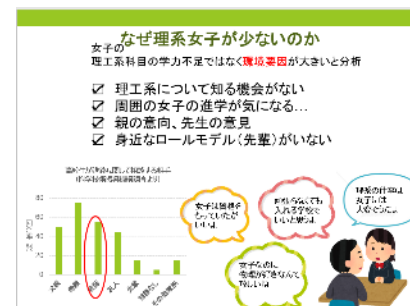
女子生徒の理系への進路選択支援を後押しする講演会を開催

女子生徒のキャリア支援を考える保護者向けワークショップ・講演会の開催



2. 教員向けの情報提供

校長会等の既存の集会を活用し進路選択支援に関する理解を深める講演会を実施



<教員向け講演会の様子>

入学者の多様性確保に向けた選抜について

■ 背景

- 多様な価値観が集まり新たな価値を創造するキャンパスを実現する観点から、各大学の創意工夫の一方策として、アドミッション・ポリシーに基づき、各大学が**キャンパスに多様性をもたらすことができる**と考える者を対象とする選抜を実施することも有効
- **そうした選抜が実施できることを明確にするため**、入学者選抜の基本方針である「大学入学者選抜実施要項」の**入試方法に、令和5年度より「多様な背景を持った者を対象とする選抜」を追加**

■ 令和7年度大学入学者選抜実施要項（令和6年6月5日付文部科学省高等教育局長通知）（抄）

第3 入試方法

1 （略）

2 上記1（1）から（3）の入試方法【補記：一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜】において、各大学の判断により、入学者の多様性を確保する観点から、入学定員の一部について、以下のような多様な入学者の選抜を工夫することが望ましい。

（1）高等学校の専門教育を主とする学科（以下「専門学科」という。）又は総合学科卒業生及び卒業見込み者

（2）帰国生徒（中国引揚者等生徒を含む。）又は社会人

（3）家庭環境、居住地域、国籍、性別等に関して多様な背景等を持った者

この場合は、**家庭環境、居住地域、国籍、性別等の要因により進学機会の確保に困難があると認められる者**その他**各大学において入学者の多様性を確保する観点から対象になると考える者**（例えば、理工系分野における女子等）を対象として、**入学志願者の努力のプロセス、意欲、目的意識等を重視した評価・判定を行うことが望ましい**。その際には、こうした**選抜の趣旨や方法について社会に対し合理的な説明**を行うことや、入学志願者の大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を適切に評価することに留意すること。

【参考】理工系の女子を対象とする選抜を実施する国公立大学（令和7年度入学選抜）

【30大学 37学部（国立：27大学 34学部、公立：3大学 3学部）】

※青塗：令和7年度入学選抜より実施するもの【16大学・20学部】

	大学	設置主体	学部等	入試方法	募集人員
1	室蘭工業大学	国立	理工	総合型	10
2	北見工業大学	国立	工	総合型	16
3	福島大学	国立	理工学群	総合型	8
4	東京科学大学	国立	理学院	総合型	15
			工学院	総合型	70
			物質理工学院	総合型	20
			情報理工学院	総合型	20
			環境・社会理工学院	総合型	9
			生命理工学院	学校推薦型	15
5	金沢大学	国立	理工学域	総合型	38
6	福井大学	国立	工	総合型／学校推薦型	15／10
7	滋賀大学	国立	データサイエンス	総合型	20
8	香川大学	国立	創造工	総合型	4
9	佐賀大学	国立	理工	総合型／学校推薦型	12／3
10	琉球大学	国立	工	総合型／学校推薦型	10／10
11	秋田大学	国立	総合環境理工	学校推薦型	15
12	茨城大学	国立	工	学校推薦型	15
13	千葉大学	国立	情報・データサイエンス	学校推薦型	15
14	電気通信大学	国立	情報理工学域	学校推薦型	5
15	新潟大学	国立	工	学校推薦型	5

	大学	設置主体	学部等	入試方法	募集人員
16	富山大学	国立	工	学校推薦型	10
17	山梨大学	国立	工	学校推薦型	14
18	名古屋大学	国立	工	学校推薦型	9
19	名古屋工業大学	国立	工	学校推薦型	28
20	三重大学	国立	工	学校推薦型	5
21	神戸大学	国立	システム情報	学校推薦型	15
22	和歌山大学	国立	システム工	学校推薦型	10
23	島根大学	国立	総合理工	学校推薦型	20
			材料エネルギー	学校推薦型	6
24	長崎大学	国立	情報データ科	学校推薦型	10
			工	学校推薦型	12
25	熊本大学	国立	情報融合学環	学校推薦型	8
26	大分大学	国立	理工	学校推薦型	14
27	宮崎大学	国立	工	学校推薦型	14
28	兵庫県立大学	公立	工	学校推薦型	15
29	山陽小野田市立山口東京理科大学	公立	工	学校推薦型	15
30	高知工科大学	公立	データ&イノベーション学群	学校推薦型	若干名

注：「令和7年度国公立大学入学選抜の概要」及びウェブ上に公表されている各大学の募集要項等に記載された募集人員を基に作成。

教員向け研修 学校における男女共同参画の推進のための教員研修プログラム

- 日常の教育活動や学校運営などを男女共同参画の視点から捉え直し、学校の管理職や教員自身の指導のヒントにつながる研修プログラムを作成
- 固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関わる11の**教育現場の身近な場面**を示した**ケース動画**を作成しており、その一つとして**大学の専攻分野の選択**も取り上げている

主な対象	ケース(場面)			
小学校教員 【初期・中堅】	ケース1 教室の日常 (家庭科・掃除) 	ケース2 学校行事(卒業式) 	ケース3 小学校での キャリア教育 	ケース4 ワーク・ライフ・ バランス
中学校・高校教員 【初期・中堅】	ケース5 教室の日常 (理科の実験) 	ケース6 学校行事(体育祭) 	ケース7 大学の 専攻分野の選択 	
管理職／管理職候補 教育委員会教職員 【管理職・ミドルリーダー】	ケース8 教員の日常 (校務分掌) 	ケース9 教員の日常 (校長会議) 	ケース10 ミドルリーダー への声がけ 	ケース11 男性教員の 育休取得

ケース動画 ナレーション抜粋

放課後、クラスの生徒と雑談している時、生徒は、進学する大学や専攻分野について迷っていることや、親の意見も気にしていることなどを話し出しました。

女子生徒「最近、工学部っておもしろそうと思っているんです。けどうちの親は、文系のほうが成績がいいのだし、就職先も見つけやすいから文系に行ったほうがいいって言うんです。それに、女なんだから東京なんかに行かないで家から通える大学にしろとか、浪人もダメだとかいうんですよ。どう思います？」

女子生徒の発言や気持ちをどう思いますか。
女子生徒の親の発言や気持ちをどう思いますか。



児童生徒向け教材 学校と地域で育む男女共同参画の促進

- **小・中学生を対象に、男女の尊重や自分を大事にすることの理解、固定的な性別役割分担意識解消の理解を深める教材、指導の手引きを作成**
- **保護者に対し、教育内容や男女共同参画の意義を説明するとともに、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み等について伝えるための保護者向け啓発資料も作成**

らしさってなんだろう？

「男なんだから
○○しなさい」

「女なんだから
○○しなさい」

と周りの人から言われたことはありませんか？

社会的・文化的につくられた
「男らしさ」「女らしさ」
「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」
という偏見や偏り

人それぞれの性に対する意識や行動の違い、個性や能力を認め合って、自分らしく生きることができる社会を目指すことが大切です。

中学生向け教材

「学校と地域で育む男女共同参画」のご案内

—— 教育内容の紹介と、ご家庭での取組のお願い ——

男女共同参画を進めることによって、すべての人の権利が尊重され、性別にかかわらず個人の個性と能力を発揮できる、多様性に富んだ社会を実現することができます。このたび、全国の中学校において、男女共同参画の促進に向けた教育を推進することになりました。

- 保護者のみなさまへお願い
 - この資料では、教育の概要や、男女共同参画に関する情報を、図表を交えながらわかりやすく紹介しています。ぜひご家庭でご覧いただき、本教育や男女共同参画についてご理解いただけますよう、お願いいたします。
 - お子さんとの話し合いや、体験型学習もしてみてください。（詳細はP4参照）

男女共同参画促進に向けた教育の概要

教育の経緯

- 令和2年に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」において、固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見・固定観念は、往々にして幼少の頃から長年にわたって形成されてきており、女性と男性のいずれにも存在すると指摘されています。
- こうした意識や偏見等の解消に向けて、各学校において、男女の個性の尊重や自他を大切にすることの理解、固定的な性別役割分担意識解消の理解を深めるための教材を作成しました。

教育の内容

- 男女の個性の尊重**
「男性／女性はどうあるべき」という思い込みが社会のあらゆる場面に存在していることや、性別にかかわらず、一人一人の個性や能力を認め合うことの大切さを学びます。
- 男女共同参画の現状**
男女共同参画に係る過去の主な出来事について学びます。また、男女共同参画に係るデータ等を通じて、男女共同参画の現状を学びます。
- 固定的な性別役割分担意識の解消**
社会には性別を理由に期待されている役割分担意識が存在していることを理解した上で、その意識にとらわれずに自分の生き方や仕事を選択してよいことを学びます。

コラム 「生命（いのち）の安全教育」のご紹介

望まない性的な行為は、性的な暴力にあたります。性暴力は、被害者の尊厳を著しく踏みにじる行為であり、その心身に長期的にわたる重大な悪影響を及ぼすもので、性暴力の根絶は待ったなしの課題です。令和2年に政府で決定された「性暴力・性暴力対策の強化の方針」を踏まえ、全国の学校等において「生命（いのち）の安全教育」を推進することになりました。この教育では、生命の尊厳を学び、性暴力の根絶にある誤った認識や行動、性暴力が及ぼす影響等を正しく理解し、生命を大切にすることや、自分や相手、一人一人を大切にすること等を身に付けることを目指しています。

教材は文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能です。
https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html

身近なところにも男女共同参画が関わっています

■ 男女共同参画に関するキーワード

ジェンダー

「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には、生まれてからの生物学的性別（sex（セックス））があります。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（gender（ジェンダー））と言います。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い・悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われています。

無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）

誰もが潜在的に思い込みを持っています。育つ環境、所属する集団の中で無意識のうちに脳にきこみこまれ、既成概念、固定観念となっていきます。

例えば ○○は男／女だから○○しなさい
男／女は○○してはいけない
と言われたことや、言ったことはありませんか？

固定的な性別役割分担意識

男を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが妥当であるにもかかわらず、「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等のように、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方があります。

例えば ○○は男／女の役割だ
○○は男／女がするべきことではない
と言われたり、思ったりしたことはありませんか？

無意識の思い込み・固定的な性別役割分担意識の解消はなぜ必要なの？

性別を理由に自らの意欲・能力が十分に活かせず、幸福を感じられないといった状況が生じないよう、無意識の思い込みや固定的な性別役割分担意識、性別意識のない社会を実現することが大切です。大人の無意識の思い込みや固定的な性別役割分担意識に基づく何気ない言動が、子供の男女共同参画への意識や、進路・生き方等に影響を与える可能性があります。性別にかかわらず、一人一人の子供が能力や個性を発揮できるような社会にすることが大切です。

① データから分かる男女共同参画① 家事・育児に関する協力は進んでいるの？

日本では、女性の就業率が上昇傾向にあります。1997年以降は、共働き世帯数が男性雇用者数と無業の妻から成る世帯を上回っており、特に2012年頃からその差は急速に拡大しています。一方で、女性の家事・育児関連時間は男性より長く、他国に比べても長くなっています。

共働き等世帯数の推移

※ 平成22年及び23年の値は、世帯主、宮城県及び福島県を除く全国の総数。

6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間

国	家事・育児関連時間（分）	性別
日本	245	女性
日本	111	男性
米国	244	女性
米国	120	男性
フランス	157	女性
フランス	124	男性
ドイツ	214	女性
ドイツ	104	男性
イタリア	210	女性
イタリア	113	男性

※ 週5労働時間、1日当たり。

出典）内閣府「男女共同参画白書（令和3年版）」に基づき作成
https://www.gender.go.jp/about/danjo/whitepaper/r03/zentai/html/naipen/cin_03_01.html

出典）内閣府「男女共同参画白書（令和2年版）」に基づき作成
https://www.gender.go.jp/about/danjo/whitepaper/r02/zentai/html/column/cin_01.html

参考資料

科学技術イノベーションを担う女性の活躍促進

令和7年度予算額（案） 22億円
（前年度予算額 22億円）
※運営費交付金中の推計額含む



背景・課題

- 人口減少局面にある我が国において、研究者コミュニティの持続可能性を確保するとともに、多様な視点や優れた発想を取り入れ科学技術イノベーションを活性化していくためには、**女性研究者の活躍促進が重要**
- 女性研究者割合を諸外国と比較すると依然として低い水準にあり、特に**上位職に占める女性研究者の割合が低い**。
また、次代を担う自然科学系の大学学部・大学院における女子学生の割合も低い。

【統合イノベーション戦略2024（令和6年6月4日 閣議決定） 抜粋】

出産・育児等のライフイベントと研究を両立できる環境の整備や研究環境のダイバーシティ、エQUITI、インクルージョンの実現に向けた大学等の取組を支援する

【経済財政運営と改革の基本方針2024（令和6年6月21日 閣議決定） 抜粋】

IT分野を始め理工系分野の大学・高専生、教員等に占める女性割合の向上に向け、女子中高生の関心を醸成し、意欲・能力を伸長するための産学官・地域一体となった取組や大学上位職への女性登用等を促進する。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

事業の目的・目標

- 研究と出産・育児等のライフイベントとの両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダーの育成を一体的に推進する**ダイバーシティ実現**に向けた大学等の取組を支援する。（H27年度より開始）

ダイバーシティ実現に向けた取組の支援

- 対象機関：国公立大学、国立研究開発法人等
- ＜女性リーダー育成型＞
 - 支援取組：教授・准教授等の上位職への女性研究者の登用を推進するため、挑戦的・野心的な数値目標を掲げる大学等の優れた取組を支援
 - 事業期間：6年間（うち補助期間5年間）
 - 支援金額：上限70百万円程度／年・件
- 新規採択件数：2件程度（ほか、先端型、牽引型、特性対応型含む既採択分30件を継続実施）

令和7年度予算額（案） 1,133百万円
（前年度予算額 1,133百万円）

特別研究員（RPD）

博士の学位取得者で優れた研究能力を有する者が、出産・育児による研究中断後、円滑に研究現場に復帰して、大学等の研究機関で研究に専念し、研究者としての能力を向上できるよう支援。

- 対象：出産・育児による研究中断から復帰する博士の学位取得者
- 研究奨励金：4,344千円／年・人〔支援人数214人（うち新規75人）〕
- 採用期間：3年間

令和7年度予算額（案） 951百万円
（前年度予算額 951百万円）

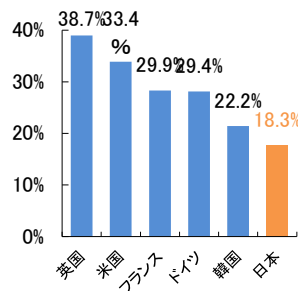
女子中高生の理系進路選択支援プログラム

令和7年度予算額（案） 79百万円
（前年度予算額 72百万円）

女子中高生の理系分野への興味・関心を高め、適切な理系進路の選択を可能にするため、地域や企業等と連携した取組などを実施する大学等を支援

- 対象機関：国公立大学・研究機関・民間企業・教育委員会等による構成組織の代表機関
- 支援取組：適切な理系進路選択について女子中高生に効果的にアプローチするために、保護者・教員も含めた地域における取組を支援
- 支援金額：3～6百万円／年・件〔8件程度（うち令和7年度新規：3件程度）〕
- 実施期間：3年間（事業開始：平成18年度（平成21年度よりJST実施））

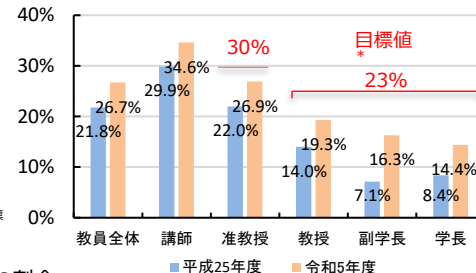
■ 女性研究者割合の国際比較



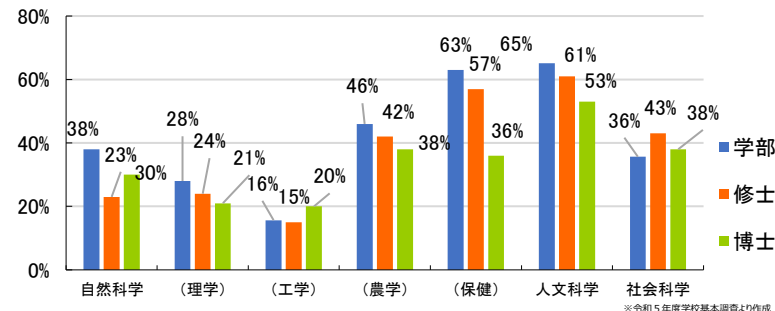
※「科学技術研究調査報告」（日本）、「Main Science and Technology Indicators」（英国、韓国、フランス、ドイツ）、「Science and Engineering Indicators」（米国）より作成

※「学校基本調査」より作成
* 第5次男女共同参画基本計画及び第6期科学技術・イノベーション基本計画における成果目標

■ 大学における職位別の女性教員の在籍割合



■ 学部学生・院生に占める女性の割合



※令和5年度学校基本調査より作成

事業創設の背景

- デジタル化の加速度的な進展や脱炭素の世界的な潮流は、労働需要の在り方にも根源的な変化をもたらすと予想。
- デジタル・グリーン等の成長分野を担うのは理系人材であるが、日本は理系を専攻する学生割合が諸外国に比べて低い。

※ 理系学部 of 学位取得者割合

【国際比較】日本 35%、仏 32%、米 39%、韓 43%、独 41%、英 44%（出典：文部科学省「諸外国の教育統計」令和5（2023）年版）

【国内比較】国立大学 60%、公立大学 47%、私立大学 29%（出典：文部科学省「令和5年度学校基本調査」）

（注）「理・工・農・医・歯・薬・保健」及びこれらの学際的なものについて「その他」区分のうち推計

- デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行うためには、大学・高専が予見可能性をもって取り組めるよう、基金を創設し、安定的で機動的かつ継続的な支援を行う。

支援の内容

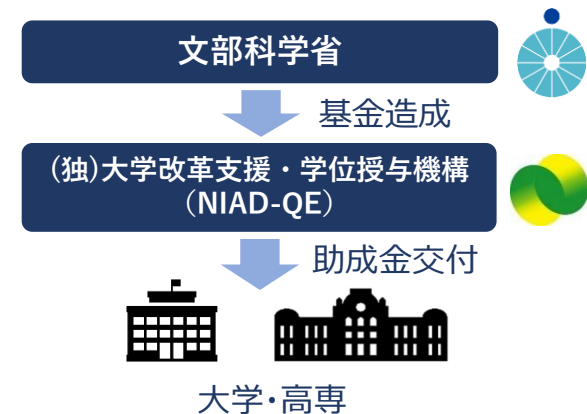
① 学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等（支援1）

- 支援対象：私立・公立の大学の学部・学科（理工農の学位分野が対象）
- 支援内容：学部再編等に必要な経費（検討・準備段階から完成年度まで）
定率補助・20億円程度まで、原則8年以内（最長10年）支援
- 受付期間：令和14年度まで

② 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（支援2）

- 支援対象：国公立の大学・高専（情報系分野が対象。大学院段階の取組を必須）
- 支援内容：大学の学部・研究科の定員増等に伴う体制強化、
高専の学科・コースの新設・拡充に必要な経費
定額補助・10億円程度まで、最長10年支援
※ハイレベル枠（規模や質の観点から極めて効果が見込まれる）は20億円程度まで支援
- 受付期間：原則令和7年度まで

【事業スキーム】



大学・高専機能強化支援事業における女子学生等の確保について

- ✓ 支援 1、支援 2 ともに女子学生の確保を含む多様な入学者の確保の取組を求めている。

支援 1：学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等

【確認項目】

計画の対象となる組織において、以下AとBのうち、それぞれ 1 つ以上を実施

【A：連携を通じた教育体制の整備】

- ・企業と連携した科目の整備・実施
- ・地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ・海外大学との連携

【B：多様な入学者の確保】

- ・入学者選抜の科目の見直し
- ・女子学生の確保
- ・初等中等教育段階の学校との連携
- ・社会人学生の受入れ強化
- ・留学生の受入れ強化

支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化

【確認項目】※いずれも満たすことが必要

- ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。
- ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。
- ③ **女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。**
- ④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

大学・高専機能強化支援事業選定大学の 女子学生確保に向けた取組計画事例

※いずれも申請時の計画によるもの

○共愛学園前橋国際大学

県男女共同参画センターとも連携し、**女子生徒の進路が文系中心の高校等へ出張授業**を行い、分野の理解に加え、ジェンダートラップ解消プログラムも提供する。

○芝浦工業大学

オープンキャンパスにて「女子高生の知らない工業大学」のシンポジウム等を実施（2022年度、以降も継続予定）し多数の女子高生と保護者を集めた。**公募制推薦入試(女子)の実施や理工系女子技術者支援奨学金(給付)**の制度も設けている。

○山陽小野田市立山口東京理科大学

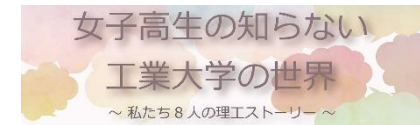
近隣大学、企業等と連携し、**女性デジタル技術者のロールモデルを学ぶセミナー**を行い、女子学生に対するキャリア教育の充実を図る。また、**女子枠入試の実施、女子寮の整備**を行うとともに、**保育所**を設置して子育て中の女性も安心して学べる環境を整備する。

○四国大学

新学部的女子学生の割合 4 割以上を目標として、①女子高生向け**進学相談**、②在学中の**チューター制度を活用した修学・就職相談**、③**女性目線のキャンパス整備**などの支援策を提供し、理系女子学生確保の促進を図る。

○熊本大学

出前型セミナーを在学生在が企画して女子学生にアプローチし、さらに、高校生に対しては、SSH指定校を中心にデータサイエンスやAI等の魅力を伝えるなど、女子学生の確保に努めている。



（芝浦工業大学：シンポジウム（右上）、サマーインターンシップ（左下））



（四国大学：女性視点のキャンパス検討）



（熊本大学：女子学生による相談）

学校における男女共同参画の推進のための教員研修プログラム

～「無意識の思い込み」に気付くために～

男女共同参画の推進には、固定的な性別役割分担意識の解消や、「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に気付いて言動等を見直していくことが必要です。文部科学省では、初等中等教育の学校現場における男女共同参画について、教員自身の「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に気付きを促し、男女共同参画の基本理念や意義を整理するとともに、日常の教育活動や学校運営などを男女共同参画の視点から捉え直し、学校の管理職や教員自身の指導のヒントにつながる研修プログラムを作成しました。

< 研修プログラムで提供する教材 >

教材は4種類の「動画教材」の他、「ワークシート」、研修プログラムを企画・実施するための「実施の手引き」があります。

◆ 動画教材

ケース動画（11の教育現場）の他、ケース動画のポイントを示す解説動画、社会的な背景をまとめた講義動画などを掲載しています。

主な対象	ケース(場面)			
小学校教員 【初期・中堅】	ケース1 教室の日常 (家庭科・掃除)	ケース2 学校行事(卒業式)	ケース3 小学校での キャリア教育	ケース4 ワーク・ライフ・ バランス
				
中学校・高校教員 【初期・中堅】	ケース5 教室の日常 (理科の実験)	ケース6 学校行事(体育祭)	ケース7 大学の 専攻分野の選択	
				
管理職／管理職候補 教育委員会教職員 【管理職・ミドルリーダー】	ケース8 教員の日常 (校務分掌)	ケース9 教員の日常 (校長会議)	ケース10 ミドルリーダー への声かけ	ケース11 男性教員の 育休取得
				

◆ ワークシート

ケース動画を視聴したあとに、ケースを見て気付いたこと、ディスカッションをして思ったこと、解説動画を視聴して研修を振り返り、考えたこと等を記入します。

◆ 実施の手引き

動画教材を対象や時間、目的等に合わせて組み合わせて活用し、教員研修プログラムを企画・実施するための手引きです。

< 研修の流れ >

【基本ワーク（1回のワークでSTEP1～3を行う場合）】

①時間 60分 ②形態 校内研修や教育センター等主催

※「実施の手引き」では、応用編として25分～90分のワークの展開例も示しています。

STEP1-1 研修の説明 【全体】 1分	参加者に研修の目的や流れを説明する
STEP1-2 ケース動画視聴(個人ワーク含む) 【全体】 8～10分	ケース動画を視聴しながら、イラストを見たり、会話を聞いたりして気付いたことや、それと関連して考えたことをワークシートに記入する
STEP2-1 グループディスカッション 【グループ】 15～20分	小グループに分かれて、男女共同参画の視点からイラストを見て気付いたことや、それと関連して自分の生活や経験から考えたことなどについて、意見交流を実施
STEP2-2 全体共有 【全体】 4～9分	各グループの話し合いの内容や感想等を全体で共有する イラスト教材の話題だけでなく男女共同参画の視点、課題とつなげて考えられるような意見を取り上げる
STEP3-1 まとめ・解説動画の視聴 【全体】 27分	まとめ・解説動画を視聴する ※まとめ動画は、視聴したケースに関わらず共通で視聴できる ※解説動画については、視聴したケースに合わせて選択する
終了後～翌日 研修の振り返り	研修の振り返りをワークシートに記入する ※研修の振り返りは、60分のワークには含まない

< 詳しくは、こちらから >

●男女共同参画の推進に向けた教員研修モデルプログラムの開発

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kyoudou/detail/1416258_00002.htm



<小学生・中学生向け教材>

らしさってなんだろう？

「女なんだから
○○しなさい」

と周りの人から言われたことはありませんか？

社会的・文化的につくられた
「男らしさ」「女らしさ」

「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」
という偏見や偏り

人それぞれの性に対する意識や行動の違い、個性や能力を認め合って、自分らしく生きることができる社会を目指すことが大切です。

中学生向け教材

<保護者向け啓発資料>

[illegible]

保護者向け啓発資料

[illegible]

＜詳しくは、こちらから＞

●学校と地域で育む男女共同参画の促進
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kyoudou/detail/1376840_00004.htm



女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業

令和7年度予算額（案）
（前年度予算額）

22百万円
19百万円



文部科学省

【事業開始年度：令和2年度】

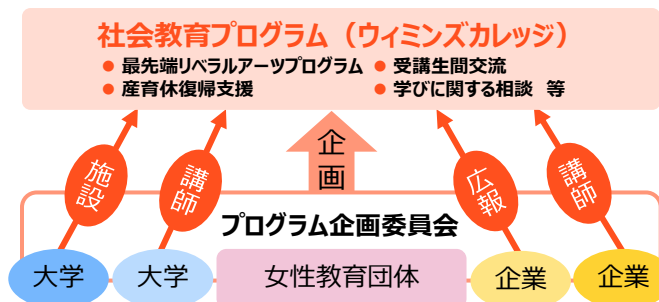
背景等

- 少子高齢化、Society5.0の実現を見据える中、**あらゆる分野での女性の参画拡大は社会・経済の持続可能な発展のために重要。**
- 第5次男女共同参画基本計画（令和2年12月閣議決定）では、**社会の多様性と活力を高め我が国経済が力強く発展していく観点や、男女間の実質的な機会の平等を担保する観点から、指導的地位への女性の参画の拡大が極めて重要とされた。**
「2030年代には、誰もが性別を意識することなく活躍でき、指導的地位にある人々の性別に偏りがないような社会となることを目指す。」ことが目標として掲げられている。
- 女性活躍・男女共同参画の重点方針2024（女性版骨太2024）（令和6年6月）では、「**未就学児がジェンダーバイアスにより自分の可能性を狭めてしまわないよう、幼児期の教育現場等における固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消に資する方策について調査研究を行う。**」とされている。

令和2年度より女性の多様なチャレンジに必要となる学びを総合的に支援する仕組みづくりに関するモデルを構築。当該モデルを活用し、全国の大学、女性教育団体、企業等が各地域で女性支援プログラムを展開・充実していくことが必要。また、子供達が男女共同参画への意識を持ち、かつ、**固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に捉われない進路選択等を行うためには、幼児期からの教育現場等における取組が重要。**併せて、子供達の最も身近な存在である教員の理解も必須。

取組① 多様なチャレンジに寄り添う学び・社会参画支援モデルの普及

- 本事業では、女性教育関係団体と大学、企業等が連携し、キャリアアップ・キャリアチェンジを希望する女性や、組織の指導的立場としてより高度な社会参画を目指す女性を支援するため、男女共同参画の意識醸成と女性ネットワークの構築を行いながら自身のビジネススキルを向上させる教育プログラムを開発し、女性のエンパワーメントを図ってきた。
- 女性の多様なチャレンジを支援する教育プログラムの全国的な普及・充実のため、**これまで開発した教育プログラムや先進的な取組事例を全国の大学・女性教育団体、企業等へ紹介するとともに、今後の女性のキャリア形成支援のあり方を議論する全国シンポジウムを開催する。**



取組② 固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みの解消に資する調査研究 拡充

- 未就学児がジェンダーバイアスにより自分の可能性を狭めてしまわないよう、幼児期の教育現場等における**固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消に資する方策について調査研究を行う。**
（昨年度の成果を踏まえ、未就学児の教育現場で活用できる教育プログラム開発と保護者向けの啓発資料を作成する。）

取組③ 教員養成課程における男女共同参画学習の推進 新規

- 大学の教員養成課程における男女共同参画学習の充実のため、教職科目（大学が独自に設定する科目等）における関連科目の現状について調査研究を行う。

（担当：総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課）